

平成25年度 学校評価（自己評価）シート

1 目指す学校像

「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、逞しく豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間を育てる学校を目指す。

2 本年度の教育目標

①学びの習慣の確立と学力の向上

生きる力につながる確かな学力の定着を目指し、学びのプロセスとしての学習習慣の確立と共に学びの結果としての学力の向上を図る。

②特別活動と部活動の充実

逞しく豊かな心身と他者との協働を喜びとできる「睦み」の心の育成を目指し、社会性、協調性、主体性を育てる特別活動と部活動の充実を図る。

③キャリア教育と地域貢献の推進

社会の中で自己の在り方生き方を見つめ、社会に貢献する志の涵養を目指し、キャリア教育や道徳教育を推進すると共に、生徒、保護者、地域社会に開かれ、地域社会に貢献する教育活動を推進する。

④英語運用力の向上と国際交流活動の推進

上記3点の育成を基盤としたその上に、国際人としての知性・感性を備え、大局的な視点に立ち、日本の内外の問題に対する正しい理解に基づいて行動できる人間、すなわちグローバルリーダーの育成を目指し、英語運用力の向上を図ると共に国際交流活動を推進する。

3 評価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	今後の課題	対策
1 学びの習慣の確立と学力の向上	1 習慣づいている1/4の層をいかに拡大させるか 2 家庭学習を促す授業の質の向上 3 図書を身近な存在として位置付ける文化の形成 4 質を追求した授業の確立 5 計画的な単元テスト等の実施	1年 ①家庭学習90時間/月(180分/日) ②週明けテストの合格率100% ③国・数・英3教科総合の平均点偏差値50以上 各教科の平均点偏差値53以上 ④図書貸出数1000冊/年	①進路実現ノートの活用 ①～④各教科、関係部署と連携を図る ①～④学年通信の定期的発行と内容の充実	①平均家庭学習時間 中間調査前129分/日 中間調査中195分/日 中間調査後91分/日 ②各教科の合格率(2回実施) 英語82% 数学96% 国語76% ③7月記述模試 3教科総合平均点偏差値48.0 国語50.8 数学46.8 英語47.8 ④7月末現在586冊	①調査終了後に一日120分以上している生徒が75名(26.6%)である。部活生徒の実態等を考慮する必要がある。 ②③週明けテストの合格率や定期調査の結果が模試結果につながっていない。 ④4月329冊、5月99冊、6月85冊、7月73冊と減少傾向にある。	①3時間を目標とし、最低2時間は確保する。 ・進路実現ノートの活用法を統一する。 ②③教科全体の課題として対応する。 ・定期調査の評価のあり方を検討する。 ・課題の出し方、量が適正であるか教科間で共有できる機会を設定する。 ・授業中の生徒の取組み姿勢は担当教員が責任を持って指導する。改善されない場合は、学年主任や関係部署と連携して指導にあたる。 ①②③寝るべき時は寝る。 ④学年通信などを通して定期的に貸し出しの促進をする。
		2年 ①家庭学習100時間/月(200分/日) ②5教科総合の平均点偏差値50以上 各教科の平均点偏差値53以上 ③図書貸出数1000冊/年 ④読書感想文コンクール入賞10名以上	①進路実現ノートを活用する。 ①～④面談、学年・進路指導集会等を効果的に実施する。 ①②教科書の持ち帰りの推進。	①平均家庭学習時間 5月25日～6月14日間 149.2分/日 100時間/月以上20.5% 60時間/月以上71.1% ②7月記述模試 3教科総合平均点偏差値50.5 3教科総合平均点偏差値60以上27名 国語53.3 数学49.4 英語50.4 ③7月末現在217冊	①家庭学習時間を如何に確保させるか。 ②数学を中心とした成績の向上と、中間層の底上げ。 ③図書室の本の貸出数が極端に少ない。	①進路実現ノートの活用法と面談・学年・進路指導集会等の効果的な実施法を検討する。 ②教科書の持ち帰り指導の徹底。 ③LH等を活用し、読書習慣の確立を図る。
		3年 国公立大学合格者100名以上	・「授業第一主義」の徹底を図る。 ・ホームや学年による全体指導と個に応じたきめ細かな進路指導を行い、全生徒のワンランク上へのステージアップを図る。 ・チームN(西高)としての意識を醸成する。	【6月マーク模試結果】 5教科7科目平均点偏差値文系44.6、理系43.9 平均点偏差値60.0以上 文系3名、理系3名 50.0以上 文系29名、理系20名 【7月記述模試結果】 3教科平均点偏差値 文系43.7、理系43.8 平均点偏差値60.0以上 理系1名 50.0以上 文系25名、理系13名	・始業のベル着が徹底できていない。 ・模擬試験で目標値に達することができていない。	授業で生徒を育てることを常に確認していくとともに、補習や個別指導により個々の学力の向上を図る。

特別活動 2と部活動 の充実	1 2年生の体力運動能力テスト結果の向上 2 中学校への情報発信チャンネルの充実 3 学校評価アンケートに行事内容の改善に対する要望が記述されている。	1年	①皆勤 ②部活動加入率90%以上 ③体力運動能力テスト結果を全国平均並にする ④学校適応100% ⑤錬歩会参加率100% 完歩率95%	①1年皆勤賞を設定する。 ④家庭、生徒サポート部と連携を密にし、事前対応を基本に指導していく。 ④学年レクリエーションを実施し、クラス、学年の一体感を図る。	①皆勤者213名(75.5% 1学期末現在) ②部活動加入者260名(8月現在) 全国大会出場団体1 個人1 ④担任、学年、関係部署が連携し、迅速で適切な対応ができています。	①起床・就寝時間の固定化と朝食の摂取 ②女子の体育系部活動への加入者が減少している。 ④生徒・保護者・学校間の齟齬の是正	①電話連絡や学年通信を通して、保護者との連携を強化する。 ④学校行事、部活動等を通して楽しく安心できるクラス・学年づくりに邁進する。
		2年	①皆勤 ②2年間の部活動継続率80%以上 ③体力運動能力テスト結果を全国平均並にする ④錬歩会参加率100% 完歩率95%	・挨拶の励行。 ①1年間皆勤賞の継続。 ④学校行事はホーム・学年が丸となって取り組む。	①皆勤者161名(58.6% 1学期末現在) ②部活動加入者269名(8月現在) 部活動継続率83.6% 全国大会出場団体6、個人4	①出席が心配な生徒がいる。	①生徒サポート部との連携を密にして早めに対応する。
		3年	①皆勤 ②部活動成績上位入賞	「意思表示」が出来る生徒を育てる。学校行事やホームルーム活動に主体的に参加させる。	①皆勤者159名(57.9% 1学期末現在) ②全国大会出場団体6、個人3	遅刻の多い生徒や長欠の生徒が複数いる。	受験に向けての体調管理を徹底し、規則正しい生活が送れるよう指導していく。
キャリア教育と地域連携の推進	地域と協働した防災活動の模索	1年	①植栽活動への参加 ②地域と連携した防災活動への参加 ③WALKプラン自己評価4.0以上 ④高大連携授業等への参加 ⑤社会貢献意識の醸成60%以上	③WALKプランのねらいを明確にし、進路選択と連動させる。 ④高大連携授業、外部事業への積極的参加を促す。 ⑤思考の土台となる語彙力を強化するとともに様々な学習内容に触れることで、多種多様な価値観があることを認識させ、視野を広げる。	①第一回目は、草引き2回、植栽1回実施。 延べ参加者235名 ②地域と連携した防災避難訓練実施(8月末) 参加地域住民120名 ③WALKプラン自己評価4.3 ④高大連携授業等への参加者3名	③総合的な学習の時間を通して高校生活に意欲が持てたという生徒がいる一方で、取り残されている生徒も少なくない。大学・職業調べが日々の取組につながっているか。 ・訪問企業が固定化されつつある。	③総合的な学習の時間における取組を、日々の高校生活に関連付けて指導する。 ・目的意識を明確にし、調べ学習を充実させる。
		2年	①植栽活動への参加 ②地域と連携した防災活動への参加 ③WALKプラン自己評価4.0以上 ④高大連携授業等への参加 ⑤進路志望決定率100% ⑥社会貢献意識の醸成70%以上	②本校周辺に限定せず、生徒の暮らす地域の行事や一斉清掃へ積極的に参加するように指導する。 ③WALKプランによる学びを、希望する進路実現と連動させる。 ⑥学習内容について他の意見も参考にしながら考察し、自己の意見を明確にする。	①生徒会や部活動を中心に、植栽活動に参加。 各活動平均参加者34.3名 ③WALKプラン自己評価4.0 ④高大連携授業等への参加者36名	④部活動と高大連携授業等の調整	④3年間の内必ず1回は参加するように促す。
		3年	社会貢献意識の醸成75%以上	人や社会の諸課題について、時間軸と空間軸をもって考察し、人や社会、世界の在り様について自分なりの意見を確立する。	ホームマッチや体育祭等の学校行事や高大連携授業等の学習活動に積極的に参加できている。	個々が自律的に取組んでいくという覚悟が不足している。	日常的に指導する。

4	英語運用力の向上と国際交流活動の推進	1年	<p>①英検準2級 普通科70%以上取得 英語科100%取得 英検2級 英語科20%以上取得 ②各種コンテスト入賞 ③国際交流体験等の主体的な情報発信</p>	<p>①学年通信、ホーム、教科において積極的な受験を促す。 ②各種コンテストの情報を提供する。また開催時期に合わせて適切に指導する。 ③「国際交流ジャーナル」等をタイムリーに発信する。</p>	<p>①【2級】英語科1名受験し合格(100%) 【準2級】普通科6名受験し1名合格(16.7%) 英語科12名受験し8名合格(66.7%)</p>	<p>①昨年度の同時期に比べ、受験者が減少している。今年度の受験者は19名であり昨年度は36名であった。</p>	<p>①引き続き、教科と協力して受験を啓発する。</p>
		2年	<p>①英検準2級 普通科100%取得 英検2級 普通科10%以上取得 英語科50%以上取得 ②英語ディベート全国大会出場 ③国際交流体験等の積極的な情報発信</p>	<p>①英検準2級の100%取得の継続と、2級への挑戦。 ②授業と関連を持たせ、英語ディベート技術の向上を図る。</p>	<p>①【2級】普通科16名受験し2名合格(12.5%) 英語科17名受験し5名合格(29.4%) 【準2級】普通科37名受験し16名合格(43.2%) 英語科4名受験し3名合格(75.0%)</p>	<p>①普通科の取得率が低い。</p>	<p>①教科担当だけでなく、ホームルームや学年集会等でも資格取得を促す。</p>
		3年	<p>英検2級 普通科30%以上取得 英語科100%取得 英検準1級 英語科5名取得</p>	<p>・self identity「自分は何者であり、何をなすべきか」を探究させる。 ・情報の周知徹底と受験奨励を強化する。</p>	<p>受験者数は増えたが、目標とする取得率には程遠い。 【準2級】普通科59名受験し41名合格(69.5%) 【2級】普通科43名受験し7名合格(16.3%) 英語科16名受験し6名合格(37.5%) 【準1級】普通科11名、英語科9名が受験したが、合格者はなかった。</p>	<p>取得率の向上を如何に図っていくか。</p>	<p>受験の奨励と英語力の向上のために繰り返し指導する。</p>
5	学習環境整備	<p>①生徒の学習環境の整備・充実が常に図られている ②安心・安全な教育環境が整っている ③防災用品の充実・管理</p>	<p>学校運営に効果的な予算の執行に努める。 ・内容と時期を考慮した執行 ・情報収集、整理、提供と迅速で正確・誠実な対応 ・必要予算の獲得 ①環境整備・美化に努める。 ・物品など更新時には、納入後の環境を見据えたうえで要望に応える。 ・不要物品の処分励行 ・生徒部と連携し、校内美化に取り組む。 ②安全な環境作りに努める。 ・事務室全員による定期巡回で修繕必要箇所の早期発見 ・迅速な予算獲得と工事発注・適切な監理 ③防災用品の研究と購入、管理 ・必要物品のリストを作成し購入 ・備蓄場所の調整と備品管理の仕組みづくりを確立する。</p>	<p>予算執行計画書を作成 ①草刈り、剪定、水やり等、植物等の管理に努めている。 ②校内を回る時はできるだけ異常箇所の発見に努めている。 ③8月から納入される備蓄品のとりあえずの保管場所を確保</p>	<p>②地震等で倒れやすい物品に対する対策 ③他の備蓄品等の検討</p>	<p>②予算の範囲内で固定化等を進める。 ③折に触れて購入の検討と場所の検討する。</p>	
6	関係機関との連携・協力	<p>1 休校情報等のページ開設 2 約1割の保護者が学校情報を目にしていない。</p>	<p>①情報発信の拡充 ②PTA総会への保護者参加率の向上 ③中学校の生徒・教員及び地域住民が西高のよさを知っている</p>	<p>①学校案内パンフを刷新する。 ・PTA広報部の継続的な取り組みのもと、西高だよりを充実させる。 ②PTA総会等参加率40%以上となるように啓発する。 ③学校HPの内容の充実を図る。 ・中高連絡会、体験入学の開催 ・「こくさい交流ジャーナル」を英語科生徒の出身中学校に送付する。</p>	<p>①外部資源を活用して斬新な学校案内が完成した。中学生やその保護者からは好評を得ている。 ・自主的にテーマを設定し取り組まれている。ページ数も増えた。 ②PTA総会参加率54% (昨年47%) ③トピックスコーナーは少なくとも1回/週の更新が図られている。 ・中高連絡会参加者46名 ・体験入学 高知市内中学生参加者282名 高知市外中学生参加者268名 ・学校HPで英語科通信掲載(1、2号)</p>	<p>②PTA総会に付随した学年会で時間的余裕がない。</p>	<p>②全体日程の内容について検討中である。</p>